

【基礎研修(1)(2)講義科目】

区分	プログラム	講師 * 敬称略、所属は収録時情報	収録	公開	
基礎研修(1) 該当 8 科目	がん対策	厚生労働省健康局 がん・疾病対策課	向井 洋介	2019 年 6 月	2020 年 1 月
	相談支援	杏林大学医学部附属病院 看護部	坂元 敦子	2018 年 4 月	2019 年 3 月
	社会資源	国立がん研究センター東病院 サポーターブケアセンター ／がん相談支援センター	坂本 はと恵	2019 年 9 月	2020 年 1 月
	臨床腫瘍学	国立がん研究センター中央病院 呼吸器内科	堀之内 秀仁	2017 年 6 月	2018 年 2 月
	緩和ケア	国立がん研究センター中央病院 緩和医療科	石木 寛人	2018 年 6 月	2019 年 3 月
	精神腫瘍学	国立がん研究センター東病院 精神腫瘍科	小川 朝生	2017 年 6 月	2018 年 2 月
	放射線治療	国立がん研究センター中央病院 放射線治療科	井垣 浩	2019 年 6 月	2020 年 1 月
	薬物療法	国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科	野口 瑛美	2018 年 6 月	2019 年 3 月
基礎研修(2) 該当 11 科目	がん予防	国立がん研究センター 社会と健康研究センター 予防研究部	島津 太一	2017 年 6 月	2018 年 2 月
	がん検診	社会と健康研究センター 検診研 究部 検診実施管理研究室 がん対策情報センター がん医療 支援部 検診実施管理支援室	高橋 宏和	2018 年 6 月	2019 年 3 月

	診療ガイドライン・エビデンス	国立がん研究センター がん対策情報センター	八巻 知香子 富塚 太郎 櫻井 雅代	2017年6月	2018年2月
	支持療法	国立がん研究センター中央病院 看護部	藤井 恵美	2019年6月	2020年1月
	臨床試験	国立がん研究センター中央病院 臨床研究支援部門 研究企画推進部多施設研究支援室	江場 淳子	2019年6月	2020年1月
	肺がん	国立がん研究センター中央病院 呼吸器内科	堀之内 秀仁	2018年6月	2019年3月
	乳がん	国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科	野口 瑛美	2019年6月	2020年1月
	大腸がん	国立がん研究センター中央病院 消化管内科	高島 淳生	2019年6月	2020年1月
	胃がん	国立がん研究センター中央病院 消化管内科	高島 淳生	2017年6月	2018年2月
	相談対応の質評価	国立がん研究センター がん対策情報センター	高山 智子	2017年6月	2018年4月
	肝胆膵がん	国立がん研究センター中央病院 肝胆膵内科	奥坂 拓志	2019年6月	2020年1月
継続研修 9科目	血液がん	国立がん研究センター中央病院 血液腫瘍科	棟方 理	2018年6月	2019年2月
	アスベスト関連疾患とその補償	独立行政法人労働者健康安全機構 東京労災病院	戸島 洋一	2017年6月	2018年2月

	について	呼吸器内科アスベスト疾患センター			
	婦人科がん	国立がん研究センター中央病院 婦人腫瘍科	加藤 友康	2019年6月	2020年4月
	高齢者とがん	国立がん研究センター東病院 精神腫瘍科	小川 朝生	2016年6月	2017年4月
家族ケア	I	日本家族研究・家族療法学会 顧問	福山 和女	2017年6月	2018年4月
	II	東京医科大学病院 総合相談・支援センター	品田 雄市	2017年6月	2018年4月
	高齢者のアセスメントに必要な視点	長野市民病院 緩和ケア・がん相談支援センター	横川 史穂子	2017年6月	2018年4月
	妊孕性	亀田メディカルセンター 臨床心理室 生殖医療科	奈良 和子	2018年6月	2019年2月
	泌尿器がん	国立がん研究センター中央病院 泌尿器・後腹膜腫瘍科	松井 喜之	2019年6月	2020年4月
	AYA 世代とがん	名古屋医療センター 小児科	前田 尚子	2019年6月	2020年4月

【基礎研修(1)(2)講義内容詳細】

区分	プログラム	講義内容詳細	内容分類
基礎研修(1) 該当 8 科目	がん対策	<p>がんはわが国の死因の第 1 位であり、約 2 人に 1 人ががんになる。本講義では、国ががん対策基本法に基づいて策定しているがん対策推進基本計画と、第 3 期がん対策推進基本計画に沿った国のがん対策の概要を紹介する。具体的には、これまでのがん対策の経緯、がんの予防・早期発見(がん検診)、がん診療連携拠点病院等、がんゲノム医療、小児がん・AYA 世代のがん、緩和ケアの推進を紹介する。</p> <p>【キーワード】がん対策基本法、第 3 期がん対策推進基本計画</p>	基盤科目
	相談支援	<p>がん専門相談員は、患者や家族等の相談者がその人らしい生活や治療選択ができるように支援することを役割とする。本講義では、日本のがん対策の中でのがん専門相談員の位置づけを歴史的経緯を踏まえて説明した後、がん専門相談員にとって業務の指針となる、がん相談支援センターやがん専門相談員に求められる基本姿勢、International Cancer Information Service Group (ICISG)の“Core Values”、がん相談 10 の原則、がん相談支援のプロセスについて詳しく解説する。</p> <p>【キーワード】がん専門相談員、基本姿勢、Core Values、がん相談 10 の原則、がん相談支援のプロセス</p>	基盤科目
	社会資源	<p>がん患者とその家族は、がんに罹患することにより、様々な社会的・経済的問題を抱える。本講義では、がん患者と家族が持つ社会的・経済的問題を解決するために有用である社会資源の種類とそれらの特徴を紹介する。また、具体的事例を紹介するとともに、社会資源の利用を推奨する際の留意点について解説する。</p> <p>【キーワード】社会資源、公的制度、社会的・経済的問題</p>	基礎科目
	臨床腫瘍学	<p>各種がんの治療を理解するためには、がん治療の基本的考え方を知っておく必要がある。本講義では、がんの原因やがん検診、がんの性質やがん治療の考え方を概説し、最近注目されている precision medicine について紹介する。最後に、薬剤の開発の流れと、薬剤の進歩とともに注目される支持療法・保管代替療法について概説する。</p> <p>【キーワード】喫煙、がんの原因、がん検診、がん治療、PS、precision medicine、セカンドオピニオン、手術療法、化学療法、放射線療法、支持療法、補完代替療法</p>	基礎科目
	緩和ケア	<p>緩和ケアは患者・家族の苦痛を予測・予防・軽減する医療であり、がんと診断されたときから緩和ケアを受けることが効果的とされる。本講義では、緩和ケアの目標を復習し、身体的苦痛・精神的苦痛・社会的苦痛・スピリチュアルな苦痛の内容を概説する。また、自宅での最期を希望する患者が多く、緩和ケアは在宅の場でも実施される必要がある。最後に、緩和ケアをおこなっていくために緩和ケアをおこなう人材育成等の現状も紹介する。</p> <p>【キーワード】緩和ケア、苦痛、終末期、在宅医療連携、がん疼痛</p>	基礎科目
精神腫瘍学	<p>がん患者や家族は精神心理的苦痛を抱えており、精神心理的支援が必要である。本講義では、精神心理的支援の内容(情報提供、情緒的な支援、問題</p>	基礎科目	

		<p>の同定、セルフマネジメントの強化、専門的な支援への引き継ぎ等)と、拠点病院における精神心理的支援の提供体制を概説する。</p> <p>【キーワード】精神心理的苦痛、緩和ケア、レジリエンス、トラウマ、ストレス、家族、ピアサポート、セルフヘルプグループ、うつ病</p>	
	放射線治療	<p>放射線治療は、手術・化学療法と並んで、がんの三大治療の一つである。本講義では、放射線治療の目的や放射線治療の装置と特徴等の基本的知識、サイバーナイフや粒子線といった最新の放射線技術、各種がんにおける放射線治療の目的、放射線治療の流れとスケジュール、放射線治療の副作用と対策、そして費用について解説をする。</p> <p>【キーワード】放射線治療、IMRT、放射線治療装置、粒子線、根治治療、緩和治療、治療開始までの流れ、副作用、費用</p>	基礎科目
	薬物療法	<p>薬物療法はがんの三大治療のうちの一つで、手術や放射線治療と組み合わせて集学的治療が実施されることが多い。本講義では、がん薬物療法の目的、がん薬物療法薬の種類、がん薬物療法の流れ・適応、そして副作用について具体的に紹介する。また、がん治療の経済的毒性と医療費についても概説する。</p> <p>【キーワード】薬物療法、分子標的薬、内分泌療法薬、免疫療法、副作用、免疫チェックポイント阻害薬、生殖機能、医療費</p>	基礎科目
基礎研修(2) 該当 11 科目	がん予防	<p>がんは日本人の死因の 1 位であり、日本人にとって身近な病気である。がんの予防は多くの人の関心を集めるテーマであり、本講義では、先ずがんが予防できるのかを研究結果をもとに概説する。また、健康情報の信頼性を判断するための方法を説明する。最後に日本人のためのがん予防法について、現在明らかになっている知見を紹介する。</p> <p>【キーワード】がん予防、健康情報、信頼性、がん予防法</p>	実践応用科目
	がん検診	<p>がん検診では、がん罹患している者や疑いのある者を早めに発見し、必要かつ適切な検査・治療につなげることで、がんの死亡者の減少を目指す。本講義では、がん検診の目的と考え方・評価の方法、対策型検診として現在推奨されている各検診について、紹介する。その後、がん検診での精度管理のための方法や、がん検診の利益・不利益、がん検診の問題点について説明する。</p> <p>【キーワード】がん検診、健診、感度、特異度、精度管理、受診率、過剰診断</p>	実践応用科目
	診療ガイドライン・エビデンス	<p>患者や家族は、科学的根拠に基づく信頼できる情報を入手することにより、その人らしい生活や治療選択が出来るようになる。本講義では、先ずがん専門相談員による情報支援の必要性について概説する。その後、信頼できる医療情報源の一つである診療ガイドラインがどのように作成されるか、診療ガイドラインにおけるエビデンスの見方を紹介する。最後に、診療ガイドラインの実際の活用方法と活用の留意点について紹介する。</p> <p>【キーワード】がん情報、がん相談支援センター、情報支援、診療ガイドライン、エビデンス</p>	実践応用科目
	支持療法	<p>がん治療をおこなうにあたって、副作用や合併症の出現は不可避である。本講義では、先ずがん患者の多様な気付きや困りごとを、データに基づいて解説する。次に、手術療法・化学療法・放射線療法でおこりやすい副作用・合</p>	実践応用科目

	<p>併症と、それぞれの症状に対するケアや日常生活上の工夫について具体的に紹介する。</p> <p>【キーワード】がん治療、支持療法、副作用、合併症、悪心・嘔吐、末梢神経障害、皮膚障害、口内炎、脱毛、リンパ浮腫</p>	
臨床試験	<p>最良の治療である標準治療の確立をするためには、臨床試験が必要となる。本講義では、先ず治療開発における臨床試験の位置づけや臨床試験の種類、臨床試験情報の探し方と日本の臨床試験登録システムについて紹介する。また、仮想事例をもとに、患者からの臨床試験の相談対応の方法を解説する。</p> <p>【キーワード】臨床試験、標準治療、第Ⅰ相試験、第Ⅱ相試験、第Ⅲ相試験、治験、未承認薬、適応外薬、先進医療、患者申出療養、拡大治験、臨床試験登録システム</p>	実践応用科目
肺がん	<p>肺がんの死亡数は男性で1位、女性で2位であり、日本人にとって大変身近ながんである。本講義では、肺の構造や機能、肺がんの死亡数・危険因子という基礎知識をおさえる。次に、肺がんの診断、検査、進行度分類、組織や特徴による分類について解説した後、治療の選択方法・手術・薬物治療・放射線治療・緩和ケアについて概説する。</p> <p>【キーワード】肺、死亡数、危険因子、気管支鏡検査、PS</p>	各論専門科目
乳がん	<p>乳がんの罹患者数は増え、女性の11人に1人は乳がんを患っている。本講義では、乳房の構造と乳がん、日本における乳がんの罹患率と死亡率、乳がん発症に関連する因子、乳がん検診について紹介する。次に、乳がんの症状、マンモグラフィや病理組織学的検査といった乳がんの検査、乳がんの診断と分類を概説する。治療では、乳房再建術を含めた手術療法、放射線療法、薬物療法を、そして妊孕性温存や化学療法の費用について紹介する。</p> <p>【キーワード】乳房、マンモグラフィ、サブタイプ分類、早期乳がん、乳房再建術、進行・再発乳がん、内分泌療法、免疫チェックポイント阻害剤</p>	各論専門科目
大腸がん	<p>ここ50年で大腸がんによる死亡数は約10倍増加している。本講義では、大腸がん部位別発症頻度や大腸癌の死亡数・リスク、診断や分類等についてまず解説する。次に、進行度別治療法を紹介した上で、大腸がんの治療法を具体的に説明する。手術では内視鏡や人工肛門増設術等について、化学療法では用いられる薬剤の成績と副作用について、最後に一般的な質問事項について説明する。</p> <p>【キーワード】内視鏡、内視鏡的治療、ストーマ、術後補助療法、切除不能再発大腸がん、副作用、緩和ケア</p>	各論専門科目
胃がん	<p>胃がんは日本でもっとも頻度の高いがん種であり、世界的にも罹患率および死亡率が高いがんとされる。本講義では、先ず胃がんの罹患数と死亡数、危険因子、症状、分類について概説する。また、ステージに応じた治療として、内視鏡的切除を含めた外科切除、術後補助化学療法と緩和的化学療法で使用する薬剤や治療成績を紹介する。</p> <p>【キーワード】死亡数、罹患数、危険因子、ピロリ菌、症状、組織型分類、進行度分類、内視鏡的切除、術後補助化学療法、緩和的化学療法</p>	各論専門科目
相談対応の	<p>がん患者・家族の問題・課題に適切に対応するために、相談支援の質を向上</p>	実践応用

	質評価	<p>させることは大変重要な課題である。本講義では、がん相談支援センターがめざすものやがん専門相談員の役割を改めて確認したのち、がん相談支援センターで提供されるべき品質基準について考える。また、品質基準が満たされているかどうかを確認するためのツールの1つである「がん相談対応評価表」の内容と使い方を紹介する。</p> <p>【キーワード】がん相談支援センター、がん専門相談員、品質管理、品質保証、品質基準、がん相談対応評価表</p>	科目
	肝胆膵がん	<p>肝がん、胆道がん、膵がんは、いずれも難治性のがんである。本講義では、これら3つのがんの原因や診断・治療について、それぞれ概説していく。具体的には、肝がんでは肝炎と肝がんの関連、ラジオ療法等の局所治療を含めた治療法、医療費、胆道がんでは診断、治療法の選択と内容(特に化学療法の進歩)、膵臓がんでは診断、治療を切除例・局所進行例・遠隔転移例・免疫療法にわけて解説する。</p> <p>【キーワード】肝がん、肝炎、局所療法、胆道がん、膵がん、免疫療法</p>	各論専門科目
継続研修 該当 11 科目	血液がん	<p>血液がんは白血病や悪性リンパ腫・多発性骨髄腫等、数多くの種類が存在し、それぞれ治療法が異なっている。本講義では、血液がんの疫学・発生要因、白血病や悪性リンパ腫の疫学・病態・症状・診断・分類・新規治療や造血幹細胞移植を含む治療について解説する。</p> <p>【キーワード】罹患率、死亡率、白血病、血液検査、骨髄穿刺、造血幹細胞移植、イマチニブ、チロシンキナーゼ阻害剤、悪性リンパ腫、免疫チェックポイント阻害剤</p>	各論専門科目
	アスベスト 関連疾患と その補償について	<p>アスベストに長期に曝露することにより、中皮腫や肺がんといった様々な病気を引き起こすことがわかっている。本講義では、アスベストが原因で発症する疾患と症状について、先ず概説する。その後、アスベストの曝露が推測される職業について紹介し、検診の受け方・検査方法を解説する。また、環境と中皮腫や肺がんの発症との関連性についても学習し、最後にアスベストによる健康被害に対する制度と専門相談機関を紹介する。</p> <p>【キーワード】アスベスト、肺がん、胸膜中皮腫、石綿肺、胸膜プラーク、労災、石綿救済法、職業曝露、石綿健康被害救済制度</p>	実践応用科目
	婦人科がん	<p>婦人科がんは女性に特有のがんであり、子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がんそれぞれの特徴を持っている。本講義では、子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がんの進行期分類や治療、症状や検査について説明する。最後に、婦人科がんの統計・HPV や HPV ワクチンを含めたリスク・治療成績、術後生じうる合併症について概説する。</p> <p>【キーワード】子宮頸部円錐切除、単純子宮全摘術、広汎子宮全摘術、死亡率、罹患率、HPV、術後合併症、リンパ浮腫、排尿障害</p>	各論専門科目
	高齢者とがん	<p>人口の高齢化にともない、がん患者における高齢者の割合は年々増加している。本講義では、高齢化とがんの現状と、高齢者におきやすいフレイルという概念を紹介する。また、高齢者の身体合併症や精神症状、社会的状況などを総合的にアセスメントする上で有用である、高齢者総合機能評価(CGA)という考え方を紹介する。最後に、患者本人の意向を支えるために、意思決定能力評価や評価に基づく意思決定支援について考える。</p>	実践応用科目

	<p>【キーワード】高齢者、フレイル、CGA、身体機能評価、認知機能、意思決定能力、代理意思決定、ベスト・インタレスト</p>	
家族ケア	<p>がんをはじめとする疾病や終末期医療に携わる医療関係者は、家族ケアを実施することになる。家族のもつ独自性と力は、家族ケアの質と内容を左右する。本講義では、家族療法の原則を振り返るとともに、家族ケアについて考える。また、がん相談場面での家族ケアの視点と、各相談形態や各役割における家族ケアを考察する。</p> <p>【キーワード】家族療法、包括的・立体的家族ケア、家族関係、がん相談支援センター</p>	実践応用科目
高齢者のアセスメントに必要な視点	<p>高齢者はライフステージの完結期を向かえ、生活歴・環境・背景等、百人百様である。本講義では、高齢者の支援で経験する相談支援の問題を振り返るとともに、心理社会的支援に必要な視点を解説する。さらに、高齢者の支援には家族への介入が必要不可欠であり、代理意思決定やアドバンス・ケア・プランニングといった考え方を紹介する。最後に、相談員に必要な高齢がん患者と家族への支援を、伴走者というキーワードとともに共有する。</p> <p>【キーワード】高齢者、心理社会的支援、老年観、生理機能の変化、フレイル、CGA、家族、代理意思決定、アドバンス・ケア・プランニング、伴走者</p>	実践応用科目
妊孕性	<p>がん治療の進歩によりがんが克服できるようになるにつれて、抗がん剤治療や外科的治療等による生殖機能の低下や妊孕性の喪失が注目されるようになってきた。本講義では、先ずがん告知時に妊孕性の問題を聞く患者の精神状態を振り返る。そして、妊孕性(生殖機能)・妊孕性温存方法を学ぶとともに、がん患者の心理支援を学ぶ。最後に、がん・生殖医療を行っている施設の探し方、そして助成金など社会的資源について紹介する。</p> <p>【キーワード】がん・生殖医療、妊孕性温存、卵子・受精卵凍結、日本がん・生殖医療学会、ガイドライン、精子凍結、AYA 世代</p>	実践応用科目
泌尿器がん	<p>泌尿器がんでは、前立腺がん・膀胱がん・腎臓がんのそれぞれの特徴を紹介する。これら 3 つのがんの疫学・検査と診断の流れ・臨床病期分類・治療選択・治療にともなう副作用や合併症について解説する。前立腺がんでは監視療法や手術支援ロボット、IMRT や粒子線・組織内照射、膀胱がんでは膀胱内注入療法や尿路変向、腎がんでは凍結療法や新しい分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤等、各がんでの特有の事項を紹介する。</p> <p>【キーワード】監視療法、手術支援ロボット、IMRT、粒子線、組織内照射、内分泌療法、膀胱内注入療法、尿路変向、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害剤</p>	各論専門科目
AYA 世代とがん	<p>第 3 期がん対策推進基本計画の分野別施策で AYA 世代が取り上げられ、近年 AYA 世代のがんが注目されている。本講義では、AYA 世代の特徴・AYA 世代のがんの特徴・AYA 世代のがん治療の問題・AYA 世代がん患者のニーズ・AYA 世代がん患者の支援体制の構築・就学支援や就労支援・晩期合併症と長期フォローアップについて概説する。</p> <p>【キーワード】AYA 世代、ニーズ、医療費、ピアサポート、就学支援、就労支援、晩期合併症、長期フォローアップ</p>	実践応用科目